

教育研究研修センターだより

通巻 No. 299

令和7年9月22日（月）発行



教職員研修事業

教員免許の更新制度が令和4年度に廃止され、先生方自身に自分の学びを管理していくことが求められています。教育研究研修センターでは、「教師自らの主体的な学びのマネジメント」のため、昨年度から「全国教職員研修プラットフォーム」(Plant)を導入しました。Plant を活用することで、先生方一人一人が自らの研修履歴を自分で管理し、マネジメントすることができます。校長先生方には所属の先生方に対して、Plant を活用した受講奨励をお願いしており、実際に先生自らが希望して研修を受講する姿が数多く見られました。

今後も先生方自身が自らの研修ニーズや今後伸ばすべき力などを確認し、必要な学びを「自ら主体的に」マネジメントすることができるよう、引き続き Plant を活用していただけたらと思います。

「教職員研修事業」についての取組を6つ紹介します。

①【新設】個別最適・協働的な学び研修講座＜希望研修＞

5月9日に当センターで開催したこの研修は、今年度から新設した研修で、年間2回のうちの第1日でした。

まずは、講義を受け、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の意義を理解しました。その後、自らの授業改善を行うために、内省と対話を繰り返しながら授業づくりを行いました。

また、教職員の学びも子どもの学びと相似形をとらえ、受講者自身も個別最適・協働的に学べるような研修をデザインしました。10月2日にある第2日では、各校での実践を持ち寄り、協議をする計画です。挑戦を繰り返しながら、子どもが主語の授業づくりを探究しています。



②【変更】主幹教諭研修講座＜悉皆研修＞

6月17日に実施した主幹教諭対象の講座は、初めてベネッセコーポレーション本社を会場に開催しました。

ベネッセコーポレーションの方を講師に、前半は社屋にあるアート作品を見ながらグループに分かれて対話型鑑賞を行いました。感じたことを話し合うと、それぞれに見方や感じ方の違いがありました。多様な考え方は当然あり、会話を重ねていくことで共感したり意見を交換したりすることで相手の考え方を知り、理解することができるということの大切さを改めて感じられていました。

後半は「3年後どんな学校にしていきたいか。」をグループに分かれて話し合い、大きなホワイトボードを使って共有しました。子供のこと、働き方のこと、若手育成のことなど、校種や学校規模が違っていても、共通する思いがたくさんあり、これからの実践について熱い思いが語り合われていました。



③新任教頭研修講座＜悉皆研修＞

7月25日に当センターで開催した研修は、本年度新しく教頭に任用された先生方が受講される講座の第2日でした。

講座の冒頭では、岡山市教育委員会教育委員 中島 俊子 委員から、「教頭先生への期待」と題して、児童生徒、保護者及び地域社会から教頭職へ求められていること等について講義を行いました。

次に、教職員課担当者から「服務・法規」に関する講義・演習がありました。管理職は様々な法令等に基づき様々な事象に対応することが求められます。受講される先生方は、昨年度までは教諭(主幹教諭・指導教諭を含む)として児童生徒の指導に当たっていましたが、本年度の職務内容は昨年度までのそれと全く異なり、「転職したようなものです」とおっしゃる方もいました。

最後に幾つかのグループに分かれ情報交換を行い、事例の共有を行ったり意見交換を行ったりしました。研修講座で学ぶ全ての内容が受講者にとって初めての内容ばかりで、非常に充実したものとなっていました。

④15年経験者研修講座＜経験年数別研修＞

8月18日にウェルポートなださきで開催した研修は、在籍期間が15年に達した先生方が受講される講座の第2日でした。

合同会社 OFFICE HIT-LAB 代表 横山 三樹生 様を講師にお招きし、「学校組織の活性化を図るためのリーダーシップの在り方について」と題しての講義・演習を行いました。

新時代のリーダーシップの在り方についての講義やヘリウムリングに挑戦したり、客観的に自分のコア機能(強み)等を振り返ったりする演習を通して、校内の中核としてこれからどのように校務に取り組んでいくべきか考えることができました。



⑤理科研修講座＜希望研修＞

8月20日に岡山大学で開催した研修は、岡山大学と連携した「岡大サテライト研修」で、教員だけでなく、教職を目指す岡山大学の学生も4名参加しました。

講師は、岡山大学の稲田佳彦教授、高木盛雄教授、谷本薫彦准教授の3名と、足守中学校の藤本大喜教諭と吉備小学校の安道隼人教諭でした。



前半は小中合同で「子どもも教師もわくわくする授業～子どもが目的意識をもって 自己決定できる授業を考える～」というテーマで講義・模擬授業、後半は小学校と中学校で分かれてそれぞれ、実践発表と講義が行われました。

児童生徒の意欲が高まり、学習課題を自ら見付けられるような導入について学びました。

⑥ICT 研修講座（発展）＜希望研修＞

8月5日に熊本大学大学院特任教授の前田康弘先生を講師にお迎えし、「1人1台端末を活用した『個別最適な学び』・『協働的な学び』の充実と校内研修の改革」の講義・演習を行いました。

従来の授業に ICT を付加するのではなく、「子供はどのように学ぶのか」という学習者の視点から授業を設計することの重要性や子供たちの学びと同様に、教師自身も自ら問いを立てて実践と振り返りを繰り返す探究的な学びが、今後の授業改善に不可欠であることなどを学びました。参加した先生方にとって、これからの「学びの専門家」としての役割を深く考える有意義な研修となりました。

令和7年度の研修の様子はこちら→

